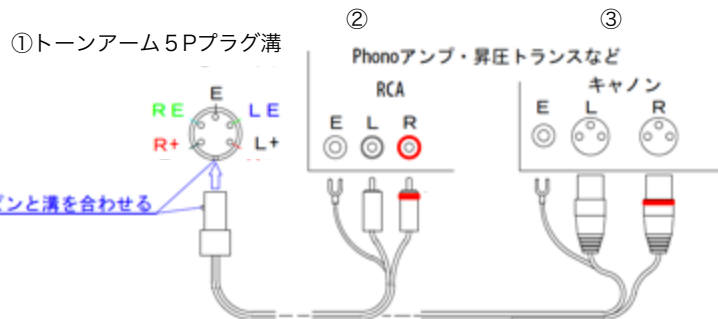


5 出力コードの接続

1. トーンアームの5Pプラグ溝に出力コードのピンを合わせ、しっかり押し込みます（下記①）。
2. ピンジャック（RCA）はPhono端子の付いたアンプに接続。そしてアース線をアース端子に接続（下記②）。
3. ボリュームを少し上げ「ブー音」が出たら接触不良です。カートリッジとヘッドシェルリード線、ヘッドシェルとトーンアームの接続点、トーンアームプラグと出力コードの接続点、出力コードとアンプの接続点を御確認下さい。特にアンプへのアース線を御確認下さい。アース線が接続されていないと「ブー音」が出ます。
4. カートリッジ巻線をボディーアースしてないMCカートリッジなどは、別売のコードでディファレンシャル（平衡）アンプなどに接続可能です。詳細はメーカーまでご連絡ください（下記③）。



6 ヘッドシェルの取付け

1. ヘッドシェルはアームパイプ先端の着脱ロックナットを緩めてヘッドシェルを取付けて下さい。
2. 前から見て傾いていたら、着脱ロックナット（①）後ろの下側ネジ（②）を緩め、シェルの傾きを修正して、再びネジ（①）を締めて下さい。

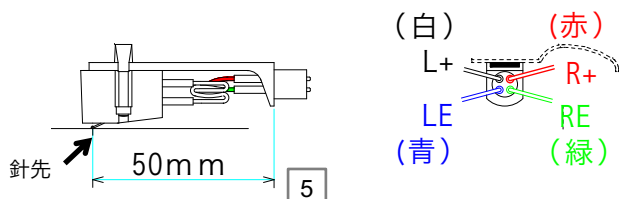


7 カートリッジの取付け

1. ヘッドシェルにカートリッジを取り付けてください。下の図のように針先から根元までが50mmになるようにフィンガーをM2.6のネジで締めます（±2～mmの誤差は問題ありません）。

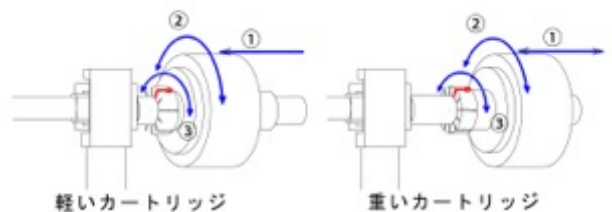
注意：このヘッドシェルはカートリッジからの漏れ振動をしっかりサポートする為、カートリッジ本体の心臓部により近い場所にヘッドシェルを固定したスリムな構造になっております。ネジ締めは必要以上に締め込まないでください。繊細なカートリッジが変形することがあります。

2. リード線の接続は、図のように接続してください。



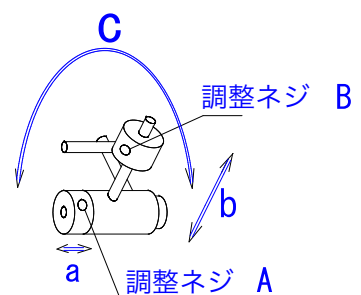
8 針圧の調整

1. メインウェイトを目盛りリングに寄せて下さい。
2. メインウェイトを回しアームが水平になるようにバランスをとって下さい。
3. メインウェイトが回らない様、目盛りリングだけを回し、赤線（0）をカーソルに合わせて下さい。
4. メインウェイトを回し（②）カートリッジの規定針圧グラムに目盛をカーソルに合わせて下さい。（目盛の数字はgを表します。5gの場合は1周後（これで5g）さらに2まで回します）
5. 重いカートリッジでバランスが取れない場合はメインウェイトを①の方向（軸中心部から先端部）に少し動かし、再度②からやり直して下さい。

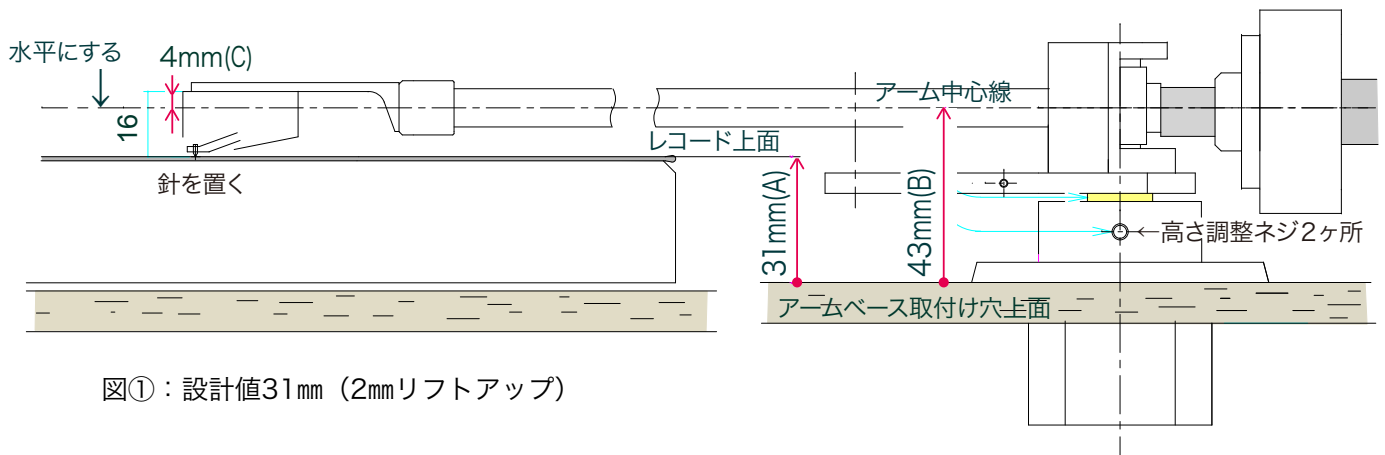


9 インサイドフォースキャンセラーの調整

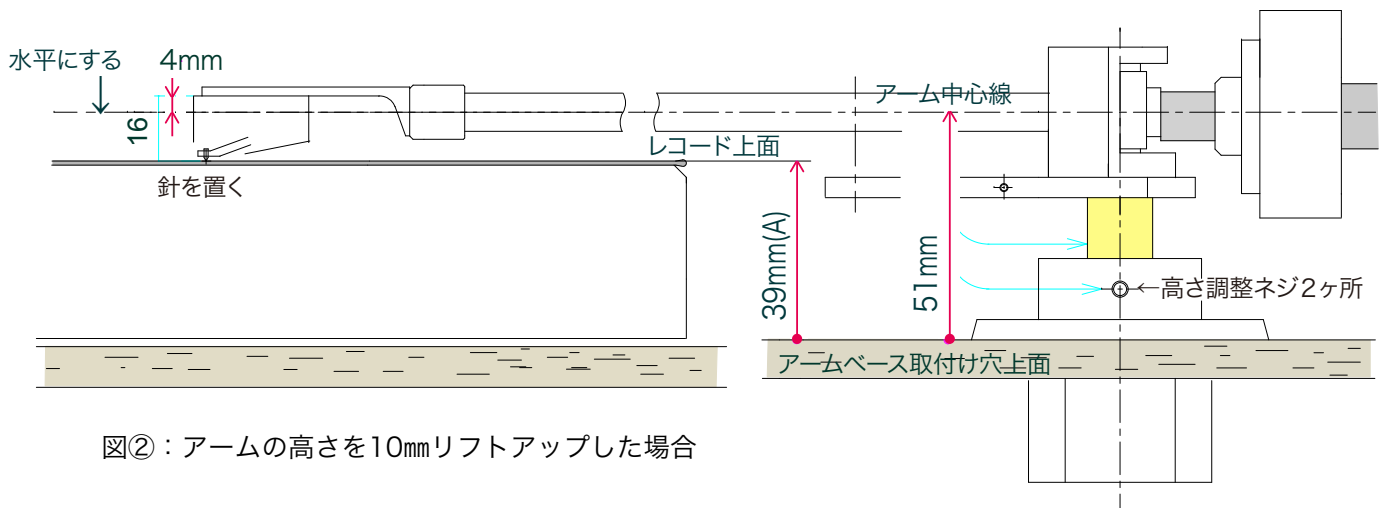
1. まずプレーヤーの水平を水準器で合わせて下さい。
2. インサイドフォースキャンセラーは、ネジBをゆるめ、b方向に動かして調整します。（本来インサイドフォースキャンセラーは針圧に比例するもので、針先の形状とレコード盤への接触条件で変動するためツマミの数値はふってありません）
3. 内周に針飛びする場合はインサイドフォースキャンセラーを多くかけてください。調整後、ネジBを軽く締めてください。特に針飛びを起こさないようでしたら、インサイドフォースキャンセラーは外しても構いません。（よりいっそうクリアな音質をお楽しみいただけます）
4. 再びインサイドフォースキャンセラーを使用する際には、Φ2mmのネジ2本をしっかりねじこみ、ウェイトの動きがC方向にスムーズに動くように、調整ネジAで、a方向に動かして固定してください。



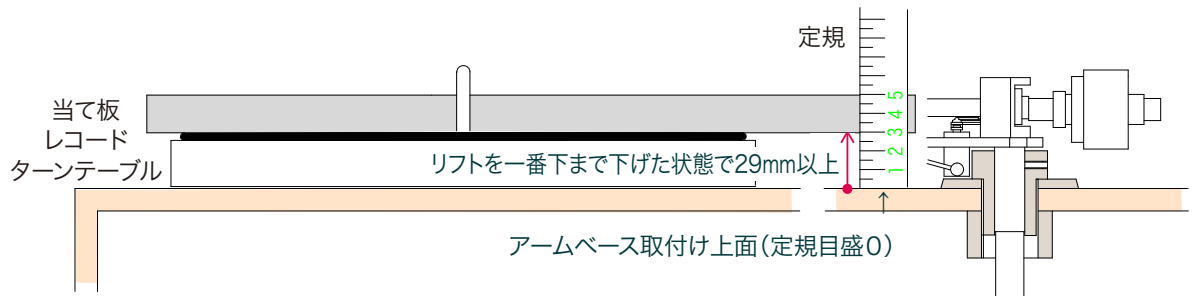
トーンアーム取付・寸法確認図（拡大図）



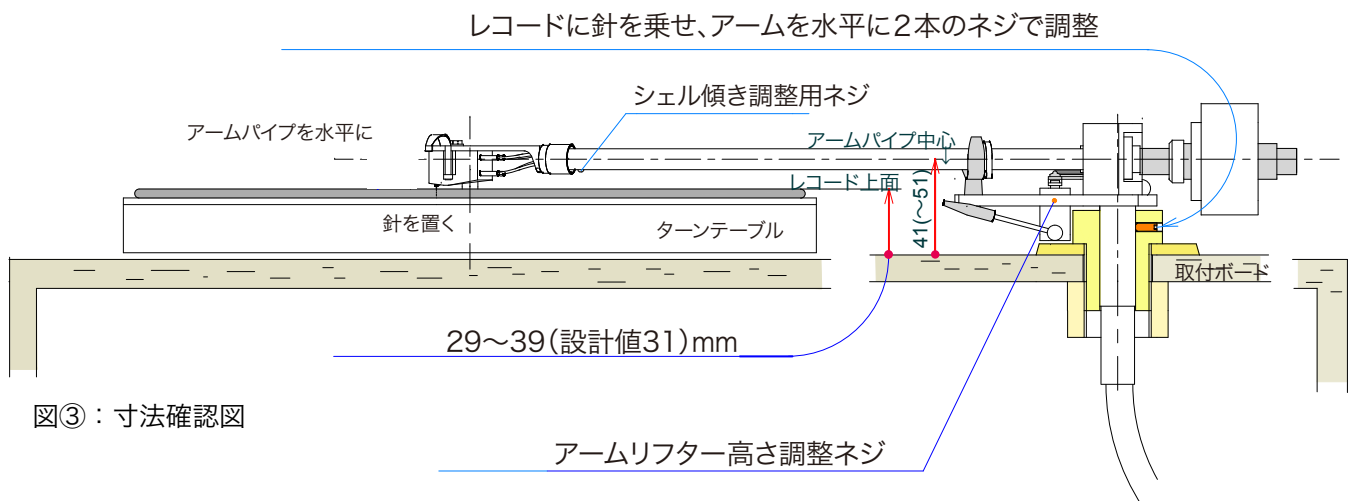
図①：設計値31mm（2mmリフトアップ）



図②：アームの高さを10mmリフトアップした場合



トーンアーム取付完了図（拡大図）



図③：寸法確認図